

宇治群島の地形—宇治島—

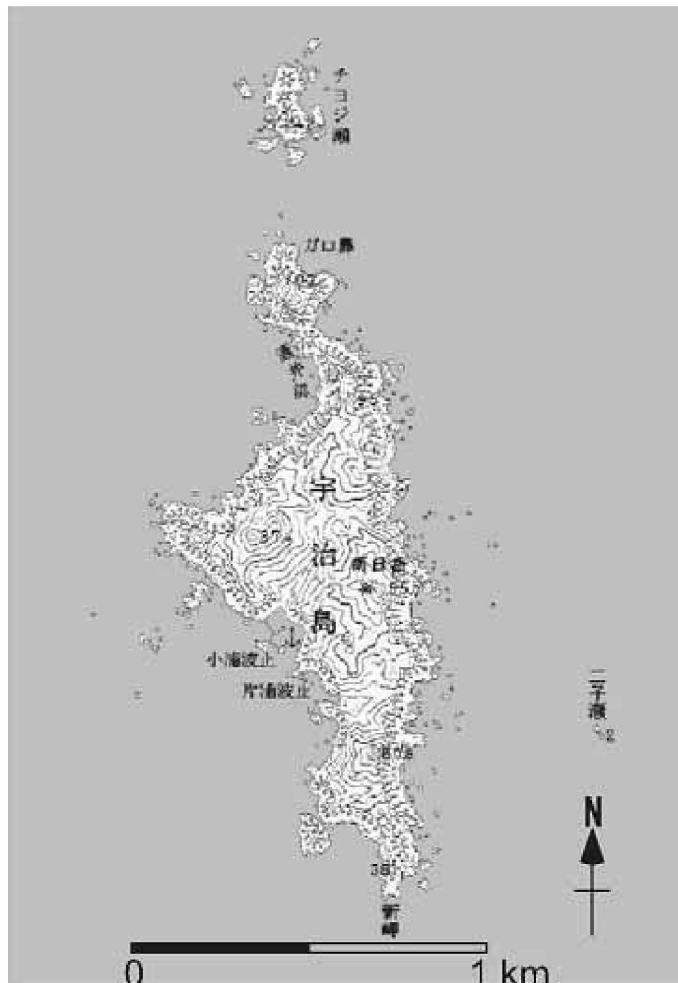
森脇 広
鹿兒島大学法文学部

Landform of Uttchima Island, Uji Islands

MORIWAKI Hiroshi

Faculty of Law, Economics and the Humanities, Kagoshima University

この調査で上陸した宇治島は，中新世後期の安山岩と凝灰角礫岩からなる（鹿兒島県立博物館，2005）．対岸の急峻な向島とは対照的に，高峰は海拔 80-90m の高さで比較的そろっており，周辺は緩傾斜な斜面が広がる（図1）．最高峰は南日岳と酒井浜東方の峰で，山頂高度は海拔 95m である．これらの峰は小火山体で，宇治島はこうした小火山体の集合した島であると考えられる．この島の山地地形の骨格は，小浦波止と片浦波止の谷を境として，北北東から南南西に延びる 3 つの山塊によって作られる．それらの山塊の



(2万5千分の1数値地図—開闢—1999年国土地理院発行による)

山地斜面は、一般的傾向として稜線の東側が急で、西側は緩やかで、ケスタ状地形をなす（写真 1）。山塊の最高峰は島の東縁に偏っているため、東側の海岸は比高の大きい海食崖がつづく（写真 2）。緩斜面は、東方に高くなるように傾斜する溶岩または溶結火砕岩の層理面と山麓の碎屑物によって形作られている。こうした非対称の山地地形は、火山体の東側山腹斜面が海食によって除去されてしまったことによる。安山岩層が東方に高くなるのは、火山体の中心の多くが現在の東岸海食崖の峰付近か、これより東側の海域にあったことを示す。唯一東側山腹が侵食されていない山体は小浦波止の北側にあるもので、小浦波止と片浦波止の谷底はこうした小火山の境界部に形成されたものといえる。二つの谷底の上流部は東岸の海食崖によって切られて、ウィンドギャップが形成されている（写真 2）。これも東岸により高い山地が広がっていたことを示す痕跡である。



写真 1 西側海域からみた宇治島



写真2 宇治島東岸の海食崖とウインドギャップー片浦波止の谷ー

最大の流域は小浦波止の谷である。山腹斜面には安山岩風化角礫とその土壌が形成され、植生の発達に寄与している。山麓緩斜面はこれらの風化堆積物の崩壊・土石流堆積物からなる（写真3）。小浦波止、片浦波止の海岸近くの平坦地はこれらの堆積物からなる小扇状地である。

島周囲の海岸は、比高の大きい海食崖の発達が特徴的で、現成の波食棚が広がる（写真4）。海食崖下には、崩壊した岩塊がしばしば分布する。細粒の礫や砂で作られた海岸は片浦波止の入り江など極めて限られる。



写真3 山麓緩斜面堆積物ー片浦波止ー



写真4 波食棚ー小浦波止ー

引用文献

鹿児島県立博物館(2005)宇治・草垣群島の自然. 鹿児島県立博物館テーマ展資料.